

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」宇都宮校		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日		～ 令和6年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和6年12月 1日		～ 令和6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者に応じた支援プログラムを立案し療育を行っている中で、保護者も一緒に療育に参加できること。個々に合わせた教材づくりをおこなっている。	支援内容が毎回同じにならないようにする。教材が同じ時間で重ならないように、職員間で話し合っ順番などを決定している。	利用者の習熟度に合わせ一人ずつ教材を考えている。また、各指導員の強みを活かした支援内容を組んでいく。
2	フィードバックで、しっかり振り返りが出来ることで、支援する側も最新の情報共有が出来ること。	学校での様子や些細なことでも話を伺いお子さまの支援内容に反映できるよう努め、指導員全員が保護者と深く話ができるようにしている。	家庭内相談という形でなくても、工夫点のおかげでどの指導員でも保護者から話を伺って、相談を受けることができる。その結果、関係機関連携へと進んだり、適切な支援を行うことが出来る。
3	情報共有をしっかりと行い、個々の療育に役立て、支援プログラムの組み立てや、内容の調整ができること。	教室全体で、その日の内容を共有しているため、公休の職員がいる場合でも記録として残し把握している。	職員間で情報共有が出来ているので、継続しながら意見交換をする場を増やしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	駐車場の数に限りがあるため、送迎時にご利用者様に不都合になる場合がある	混雑が予想される時間帯は駐車場が混み合い、空き待ちが発生してしまう。予め保護者の方にお迎えの時間をお伝えしたり、場合によってはFBをLINEでお伝えする必要がある。	予定を組む段階で、利用時間帯の分散が必要。またフィードバックでお伝えしきれなかった部分はLINEでお伝えしていく。
2	必要な防災訓練を行って教室掲示で周知しているが、保護者から見えづらい。	月一忘れずに避難訓練を就学プログラム内で行っているため放デイのお子さんの時間帯の参加が難しい。訓練中の様子を写真撮影をし掲示しているが、掲示場所が目立たない。	避難訓練の様子の写真を掲載したり、掲示場所を変えたりして説明の文章を記載することによって保護者への周知を行う。
3	感染症発生時流行しやすい	毎日の清掃、消毒、適宜換気を行っている。また、指導員の体調管理に気を配っているが構造上の問題でワンフロアの為、換気がしにくい。	毎日の清掃、換気、消毒を継続。利用者の健康状態を観察、把握していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 どもサポート教室「きらり」宇都宮校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 45名

回収数 36名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25	10	1		限られた空間の中でやるので仕方ないですが、お友達の声が気になって集中できないことがあります。	同じ時間に利用するお子さまによって場所を決めたり、パーテーションを使用し利用者同士の組み合わせなど配慮し対応してきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	30	4		2	先生が何人かお休みの時は大変そうだと感じます。利用者2名に1名の先生の対応があるので事前に説明してほしい。職員の入れ替えが続いたので落ち着いてほしい。	今後も適切な基準人員を満たした運営をおこなっていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29	6		1	先生方の机上エリアを通らないとトイレに行けないのでいろいろ触りたくてしまいます。	支援の際には書類を目隠しするなど利用者様に配慮し運営をおこなって行きます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	32	3	1		生活空間スペースは問題ないと思いますが視覚、聴覚的に気が散る気がします。	利用するお子さまが集中して取り組んでいたできるよう、整理整頓、空調調節等を行ってまいります。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	2		1	子どもの特徴を良く理解してくれています。	お子さまの特性を把握したうえで適切な支援をおこなってまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	36					個別支援計画に沿って個々のニーズに沿った支援内容を作成し進めています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	36				成長に合わせた課題を設定し、無理ないペースで進めて頂けました。	個別支援計画については、事前にお子様、保護者様の要望を確認し、その上で事業所としての見立てを行っています。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	36					必要に応じ、適切な支援を見極めながら職員間で検討を重ね支援内容を設定してまいります。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36				モニタリングで相談した計画で支援をしております。	個別支援計画に沿った療育を提供しています。また、必要に応じ関係機関へ伺い情報共有をさせて頂き支援内容の見直しを図っています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33	2		1	先生方がいつも工夫して楽しい活動にしてくださって有難いです。	お子さまの成長に合わせて、支援プログラムの調整を行っています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	5	17	13		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	35			1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	35			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	31			5		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	34	1		1	毎回フィードバックがあるので、その時にお話が出来るので良いです。	お子様の成長に合わせて、保護者様との対話する時間を大切にしている。また、変更が必要と感じた場合には職員間で共有し進めていきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	34			2	定期的に面談があるのが有難いです。	支援後のフィードバックや家族支援の機会を設け、お子様の支援と合わせて保護者様と面談を行っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	35			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	14	4	10	保護者同士の交流の機会は年に1回参加できるかどうかで、それほど多く開催されている様子はありません。	今後機会があれば保護者会の開催を定期的に行って行きたいと思っています。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	2		6	個別に相談に乗っていただく機会がありました。	家族支援を行い課題解決に繋いでいきます。また、必要に応じて関係機関連携等を行って情報共有の場を設けていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	6	1	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	32			4		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	3		5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	26	2		8		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31	1		4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	29	1		6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	36					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	31	5			毎回楽しみにしています。	内容が固定化しないよう、常に質の高い支援を目指し取り組んでいます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	4			毎週楽しく参加できており、子ども本人も楽しんでいる様子が伺えます。駐車スペースが限られているため予約時間に行っても駐車できないことがあります。	それぞれの職員の専門分野を活かしながらご満足いただける支援を行ってまいります。次の利用者様との入れ替えがスムーズになるよう時間帯の受け入れについて検討していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」宇都宮校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	パーテーションで区切って他の教具等に目が行かないよう気を付けている。	もう少し広いスペースがあれば、運動療育も出来ると思う。常にお子さまに配慮しながら限られたスペースを有効に使っていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	3	職員がシフト制の為集中する時間帯の利用者さんの対応の際に小集団療育を取り入れている。	シフト制で休日の指導員がいる際に時間帯によって支援数が多い。今後職員増加をしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	入口の段差部分に、注意用の掲示ボードを設置。	クールダウンスペースが無いので、今後検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	2	ジョイントマットを敷いたり、パーテーションで仕切りを作っている。	教具等の置き場所が少ないので棚を設置するなど工夫をしたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	ワンフロアのため対応	パーテーション等で個別空間の確保をしたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		情報共有を徹底している。	些細なことで全体共有を徹底していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		気になったことがあった際に相談できる環境にあり参画出来ている。	保護者様からの評価を踏まえ、改善点を把握し業務見直しの機会を作っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		定期的に話し合いを実施している。	情報共有の時間を徹底し保護者様の意向を把握する機会を増やしていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	評価表の作成は行っているが、第三者評価は行っていない。内部監査や実地指導等実施済み。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		毎月研修があり、質の向上にお繋いでいる。また、必要に応じて外部研修に参加している。	内部研修以外の研修や他事業所との情報共有の機会を作っていきたい。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		情報共有を徹底している。他の指導員の支援内容、記録を参考に今の利用者さんの状況を踏まえプログラムの調整等を行っている。	利用者さんの成長に合わせて支援内容の見直しも検討していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		毎回フィードバックを行い、新しい課題にシフトしたり臨機応変に対応している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		担当者会議等で情報共有をし、個別支援計画を作成した際には、管理者より声掛けがあり内容を確認しプログラムを組んでいる。	状況に応じ相談支援員さんの意見を伺い計画の検討を行う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		教室全体で把握している。サービス担当者会議を開き内容が適切か共通理解を図っている。	必要に応じ内容の確認見直しを図っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		個々の成長をみながら必要な課題を作成し情報共有し様々な教材や案を出し合い、支援に役立っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		お子さんのニーズに合わせて家族支援などを基に支援内容の見直しを進めている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		小集団プログラムや等を通じ利用者さんの支援内容について意見を交わし適宜プログラムの立案を行っている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		内容が固定化しないよう様々な教材や課題を提示し進めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		必要に応じ小集団の形を取り他児と交流を図り進めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		スプレッドシートで予定確認を行い1日の流れを組んでいる	職員数に限りがありレギュラーが起きた場合の対応が難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	固定した時間で打ち合わせを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	支援後に共有事項があった場合は情報の共有を図っている	支援人数の多い日は、後日支援記録の入力になってしまうので時間的に余裕がない場合がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリング以外でも保護じゃ様似声掛けを行わない教室全体で情報共有を行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		お子さんの成長を見守りながらより良い支援を行うため関係機関と情報共有し適切な判断等を頂き活動を行っている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		複数の教材を用意しており、本人に選んでもらったり、本児に意見を伝えてもらったり等を組みあわせ実施している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		関係機関連携でお子様の情報共有を行い支援に反映させている	現在、学校側が受け入れてもらえないケースも多く、保護者様から貴重なお話を伺っている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		関係機関連携の体制を整えているので必要に応じ各機関と連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	2		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5	該当者なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5	該当者なし	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4	開催の際には参加させてもらっている	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		毎回フィードバックを行い情報共有をしている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	ご家族のご要望があれば、こちらからも積極的に発信している。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		ご家族のご要望があれば、こちらからも積極的に発信している。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者様のご要望を伺い、お子さまにとって最善の策を見つけ支援計画に取り入れている。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		サービスの見直しごとに支援内容の説明と計画の同意を頂いている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		必要に応じ家族支援の実施をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	4	パパママカフェを実施し保護者の交流を図っているが、今年度は宇都宮校での開催はなかった。	今後機会を觀て交流の場を設けたい。全体で集まるのは難しいため機会を見て実施したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情があった際には真摯に受け止め、上長に判断を仰ぎ適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	4		指導員の異動などがあった為、新たに情報発信をしていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		発語の難しいお子さまに、iPadや絵カードを使用し意思の疎通を図っている。また、筆談などを使って支援をおこなっている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	現時点で地域の方と交流は無い。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		月に一回避難訓練を行いテーマ別に実施している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCP委員会や研修の機会を設け非常災害の発生に備えている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		契約の際に保護者様に確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5	該当者なし	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全管理計画の作成を行い、定期的に研修に参加し必要に応じ話し合いを行っている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		契約、避難訓練の際に避難場所の提示を行っている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットが起きた際には、上長と連絡を取り報告書を作成し、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に虐待防止委員会を開催し、研修を行い情報共有を行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		虐待防止委員会で研修を行い、情報共有を行っている。また、身体拘束の同意書に契約の際に保護者からサインを頂いている。		